

# 環境・再生エネで新組織

## 3研究部会 競争力の向上狙う

茨城県日立市を中心とした中小製造業約80社は再生可能エネルギーや環境などに関する新技術や製品を共同で開発する。新たに立ち上げた協議会を通じて、各社が得意とする技術などを持ち寄る。東日本大震災や円高の定着など厳しい経営環境が続くなか、競争力向上と市場開拓につなげる。

### 日立周辺の中小製造業80社

3研究部会に分かれて共同研究

日立市ものづくり産業活性化協議会(仮称)	▽発電システム研究部会 再生可能エネルギー発電システムや非常用発電システムの開発
	▽省エネ・創エネ機器研究部会 省エネ関連機器や蓄電システムの開発
	▽3R研究部会 環境負荷軽減につながる生コンクリート製造

「日立市ものづくり産業活性化協議会」(仮称)を立ち上げた。電機メーカーやコンクリート製造業者などで構成し、研究分野別に3つの部会を設ける。当面は日立商工会議所が連絡・調整窓口を務め、年明け以降に活動を本格化させる。

「発電システム研究部会」では非常用発電システムのほか、小型水力など再生可能エネルギーに関するシステムを開発する。

参加する製鉄機械設計・製作のS.P.エンジニアリング(日立市)によると、非常用発電システムは大手が参入しにくい小型を念頭に、ディーゼル発電機や蓄電池、給水装置を組み合わせるなどを検討している。2年後をめどに避難所や

公共施設への売り込みを始めるとしている。

「省エネ・創エネ機器研究部会」は高性能な発光ダイオード(LED)や廃熱回収装置、蓄電システムなどを開発する。LED照明などを製造する大友製作所(同)が取りまとめる。

「3R研究部会」は、再資源化を目指す。ごみの減量、再使用、再資源化を目指す「3R(リデュース・リユース・リサイクル)研究部会」

は、コンクリート関連会社が石炭火力発電所から排出されるフライアッシュ(石炭灰)をコンクリート材料の一部に活用して耐久性を高める取り組みを進める。

協議会には日立市の産業支援機関、日立地区産業支援センターも加わる。日立製作所OBによる講習に加え、同センターにある工作機械やCAD(コンピューターによる設計)関連機器といった設備を開放して活動を支援する。

活動には独自技術を持つ中小企業がグループを形成する際の費用を補助する国の支援策を活用する。参加企業は日立製作所の下請け企業が多いが、震災による被災や円高など取り巻く環境は厳しい。技術面などで連携を進め、成長分野での共同開発・受注につなげる。

は、コンクリート関連会社が石炭火力発電所から排出されるフライアッシュ(石炭灰)をコンクリート材料の一部に活用して耐久性を高める取り組みを進める。

# 日本経済新聞

10月25日

木曜日

S.P.エンジニアリング株式会社  
〒317-0074 茨城県日立市旭町2丁目2番11号  
TEL 0294(24)7555(代)

代表取締役 泉 富栄

